企画展

知られざる土佐古代塗

―土佐ニ古風ノ漆器アリ―

深みのある朱と黒の対照、
岩肌のような地、
文字を主体とした装飾を
特徴とする漆器「土佐古代塗」。
明治の土佐で産声を上げ、
現在も続くその歩みをたどる展覧会。

This is
TOSA!

Tough and Stylish Lacquerware
"KODAI-NURI"

2023(令和5年)

3.21 TUE.祝 ―― 5.19 FRI.

会期中無休

OPEN 9:00～18:00（日曜日は8:00～18:00）
※展示室への入室は閉館の30分前まで

主催／高知県立高知城歴史博物館
（公益財団法人土佐山内記念財団）

観覧料 700円（団体20名以上560円）
高知城とのセット券900円

高校生以下無料

※身体障害者手帳、精神障害保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者1名は無料
※高知県・高知市長寿手帳所持者は無料
※観覧券は当日のみ有効（年間観覧券は除く）

高知県立
高知城歴史博物館

企画展

知られざる土佐古代塗

―土佐ニ古風ノ漆器アリ―

●は当館蔵

130年前、激動する時代に漆器を寄り添わせようと、試行錯誤した人たちがいた。

●彩漆蒔絵蟹図盆
山脇古代堂

土佐古代塗とは。

明治時代中頃の土佐で生まれた漆芸品です。末永く使える日用品を目指し、丈夫で傷の付きにくい塗り、歳月とともに深みを増す飽きの来ないデザインが追求され、

◉深みのある朱と黒の対照
◉岩肌のような地
◉文字を主体とした装飾

という、独特の作風へと洗練されていきました。

古代塗が生まれたての頃には、カラフルでリアルな図柄が試みられたり、竹や木の皮の素地を活かした塗りなども行われていました。展覧会では、先年、発見された資料から、古代塗草創期の姿に迫ります。

時代を映す、古代塗の歩み。

地元高知では記念品の定番として親しまれ、名入りやオリジナルデザインの製品もさかんに作られました。展覧会では、残された下絵や型から高度成長期の土佐と古代塗の姿に迫ります。

●古代塗の型
旭漆器

●為観字入丸膳
山脇信三（古代堂）

堅牢な地に中国古代の書体で「為観」の2字を表わし、さらに古色を施した古代塗創始者による作品。明治生まれの漆器ながら、このような擬古的な作風から「古代塗」の名が付けられた。

古代塗のある暮らし。

展覧会では「古代塗のある暮らし」を提案します。展覧会会場やSNS、パンフレットで、漆器のお手入れの仕方や、すてきな盛り付け方などをご紹介。またミュージアムショップでは商品を実際に触っていただけます。

土佐料理三種盛り
コーディネイト／藤江ゆかり
撮影／中島健藏
※下の盆を使用

漆を楽しみ、古代塗を知る展覧会。

縄文の昔から使われてきた塗料「漆」。道具に強度や防水性を与えるだけではなく、蒔絵、象嵌などの装飾が工夫され多彩な発展を遂げました。展覧会では、漆芸の様々な技法もあわせて紹介し、古代塗の特色を浮き彫りにします。

花字入丸膳
池田泰一（美禄堂）

関連企画

①特別講演会

現在、古代塗唯一の継承者である池田泰一さんにお話を伺います。

講師　池田泰一氏（美禄堂）
日時　令和5年4月2日（日）14時～15時
会場　当館1階ホール
定員　40名（先着順）
申込方法　来館・電話・FAXにて氏名・住所・電話番号をお知らせください。

②スライドレクチャー

企画展担当者が古代塗調査のこぼれ話を語ります。

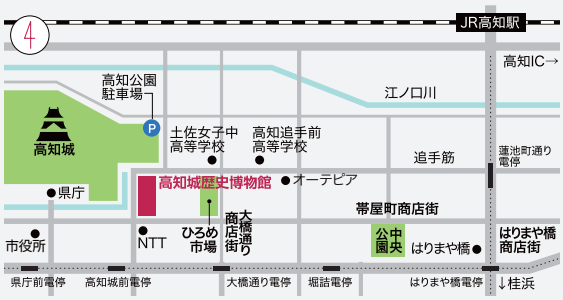
日時　期間中、月最終の日曜日、午前10時30分～11時
3月26日、4月23日、5月28日
会場　当館3階土佐史探索室
参加費　無料（要観覧券／申込不要）

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止・延期する場合があります。

高知県立
高知城歴史博物館

〒780-0842　高知県高知市追手筋2-7-5
TEL 088-871-1600　FAX 088-871-1619
https://www.kochi-johaku.jp/
城博　検索

●交通アクセス

お車をご利用のお客さま　高知自動車道高知ICから約15分。一般来館用の駐車場はございません。周辺の有料駐車場をご利用ください。※障害者用駐車場（2台）あり。

JRをご利用のお客さま　JR高知駅からとさでん交通路面電車（はりまや橋方面行き約5分）はりまや橋下車、乗り換え（鏡川橋または朝倉またはいの方面行き約5分）、高知城前下車、徒歩3分。